

近代移行期東アジアの人口指標

Demographic Indicators in Eastern Asia Transitioning to Modern Period

鈴木透 (元国立社会保障・人口問題研究所)

SUZUKI, Toru (ex. National Institute of Population and Social Security Research)

vyt00752@nifty.ne.jp

18～19世紀の日本、朝鮮、中国の人口指標を西欧と比較した。晩婚・稀婚の非常にユニークな結婚パターンを示したヨーロッパに対し、東アジアは早婚・皆婚だったが、西日本は比較的晩婚で、朝鮮は非常に早婚だった。晩婚によって結婚力を抑制したヨーロッパと異なり、東アジアは禁欲、中絶、嬰兒殺し、遺棄等によって結婚出生力を抑制した。結果的に日本の出生率・死亡率は西欧とほぼ同程度だったが、朝鮮・中国は日本より高い死亡率を補うため高い出生率が必要だった。表の朝鮮の粗出生率・粗死亡率は權泰煥・金斗燮による推定値だが、実際には19世紀前半の粗死亡率は40～50%で、人口は停滞または減少していた可能性が高い。中国・朝鮮の乳児死亡率は、平常年でも300%を超えていたと考えられる。

東アジアの都市化は、すでに産業化が始まっていた西欧ほど顕著ではなかった。特に18世紀後半の日本では農村部で資本の投資と蓄積が行われ、都市人口割合はむしろ低下したとされる。金斗燮の戸籍人口分析では1789年の都市人口割合は4.35%となるが、これは過小評価と思われる。ソウルの人口(23.4万人)にランク・サイズ・ルールを適用すると、都市人口割合は8%程度だったと推定される。中国では人口の大部分5,000人未満のコミュニティに居住しており、都市人口割合は日本より低かったとされる。

報告では近著(Suzuki, 2024)に基づき、近代期(19世紀後半～20世紀前半)の東アジアにおける人口転換、疫学転換、移動転換等の比較も行う。

表. 18～19世紀の人口指標

	西欧	日本	朝鮮	中国
初婚年齢(男)	>24	18~29	16~18	21~22
初婚年齢(女)	>23	14~23	16~19	17~19
CBR (%)	28~38	18~40	30~45?	
TMFR	7.5~9.0	3.7~7.5	6.5~9.2	6.0~7.5
TFR	4~6	2.8~5.8	5.3~8.0	5~6
CDR (%)	20~36	16~37	30~35?	
IMR (%)	200	200		
平均寿命(男女)	36	34	23	21
都市人口割合(%)	20~50	12~14	4?	<12

Suzuki, T. (2024) *Comparative Population History of Eastern Asia*, Springer, p. 84.